

(提言) 「わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」

1 現状及び問題点

わが国の獣医師の職域は多様であり、また近年の社会情勢の変化にともなって、例えば人獣感染症のコントロールや食の安全確保といった新しい社会ニーズが生じているにもかかわらず、わが国獣医学教育は、欧米の獣医科大学に比べて十分とは言えない状況である。

2 提言の内容

- (1) 人獣共通感染症、食品安全対策、伴侶動物への高度医療対応、野生動物の管理保護、グローバルに展開する医薬品開発を支える動物医学など、獣医学に求められる新たな社会的ニーズが生じたことを再認識する。
- (2) これら多様な社会的ニーズに対応できる国際的レベルの獣医学教育体制を早急に整える必要があり、そのためには新たな教育基準の策定が求められる。
- (3) 教育体制の改革を実効あるものとするためには、教育理念、教育内容、組織、施設等を的確に評価できる体制を構築する必要がある。
- (4) 日本はその教育基準を、リスクと課題を共有するアジアに適応できる国際的なものへと発展させることが期待される。
- (5) 獣医学分野の評価を実効ある改善に繋げることが求められる。国立大学にあっては現状の教育の仕組みを深化させる、すなわち組織統合を図ることが必要である。私立大学等の大学にあっては、自助努力で教育の質を向上すべきである。